

◆巻 頭 言◆

樹齢千年を超える三春滝桜のごとく
～未来への創造をめざして～

福島県環境創造センター所長 郡司 博道



本年度、全国環境研協議会の会長を務めさせていただくことになりました。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

また、会員機関の皆様には地域の環境問題の解決に向け、日々調査研究にご尽力されていることに深く敬意を表しますとともに、今後とも、全国環境研協議会の活動に御理解と御協力をお願いいたします。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から14年が経過いたしました。この間の全国の皆様のご支援により、当県の復興は着実に前進しておりますが、その一方で廃炉や処理水対策、除去土壌の処分、そして風評と風化の問題など復興のステージが変わるにつれて新たな課題も顕在化しており、そうした課題と一つ一つ向き合い、解決に向け挑戦を続けているところです。

そうした中であって、福島県環境創造センターは、原子力発電所の事故により放射性物質で汚染された「環境の回復・創造」を行うとともに、それ以前から実施してきた関係法令に基づくモニタリングや規制基準の遵守状況確認のための調査を行う総合拠点として、平成27年に旧「環境センター」と旧「原子力センター」の機能も統合して設置された、復興を環境の面から支える施設です。

これまでの10年間、福島県と日本原子力研究開発機構（JAEA）及び国立環境研究所（NIES）の3機関の連携・協力で事業を進めてきましたが、本年4月からは、新たに福島国際研究教育機構（F-REI）を加えた4機関による体制の下で「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」、「教育・研修・交流」の4つの事業に取り組んでいます。

また、当センターは「本館」・「研究棟」・「交流棟」（三春町）と、原子力発電所周辺のモニタリングや空間放射線の常時監視を行う「環境放射線センター」（南相馬市）、放射性物質の分析等を行う「福島支所」（福島市）、野生生物の放射能に関する調査や野生鳥獣の保護を行う「野生生物共生センター」（大玉村）、猪苗代湖における調査研究等の拠点となる「猪苗代水環境センター」（猪苗代町）の4つの関連施設によって構成されています。

このうち「本館」等が立地する三春町には、日本三大

桜の一つである「三春滝桜」があります。この樹齢千年以上とされ、天然記念物にも指定されているエドヒガン系の紅枝垂桜は、これまでの大雨や大雪、冷害等の自然災害などにも耐えてきましたが、平成8年に花付が極端に悪くなりました。その際には、樹木医や地元の方々の様々な努力により樹勢を回復し、今では見事に復活して、薄紅色の花が流れ落ちる滝のように咲き誇る様子や壮大な雄姿を観るために毎年国内外から多くの方が訪れています。この三春滝桜は古木ですが、その枝は毎年10～50cm程度成長しているそうです。今年の桜の季節は終わってしまいましたが、さらに成長し来年もきっときれいな花を咲かせてくれることでしょう。皆様ぜひ三春にお越しください。

さて、そんな三春滝桜も近年は開花時期が早まってきているといわれており、その原因の一つとして地球温暖化が考えられています。地球温暖化は全世界的な問題ですが、それによる気候変動の影響は地域によって異なるため、それぞれの地域特性に応じた影響を調査・評価するとともに、その情報を共有することで広範かつ総合的に対策を推進することが必要とされています。幸いなことに、コロナ禍以降、オンラインコミュニケーションツールが急速に普及し、関係機関との情報共有や住民への情報発信は容易になりました。

しかしながら、問題を多角的な視点からとらえて本質に迫るためには、実際に現地へ赴き「見て」、「感じて」、「考える」ことの重要性も忘れてはならないと思います。

地球温暖化以外にも、PFASやPM2.5の問題など私たち地方環境研究所が取り組まなければならない課題は山積しておりますが、美しい環境を保全し次世代に引き継いでいくためには、いずれの課題に対しても、調査研究に広範かつ総合的に取り組むと同時に現地で実際に体験して考えることが重要です。

このため、全国環境研協議会の活動もバーチャルとリアルをハイブリットに組み合わせる時代に合わせて変化・発展させていく必要があると考えております。千年を超えても未だ成長し続けている滝桜のように。